

楽しみながら学べる

ネットモラルけんてい

広教ニュースレター

Vol.13



広教
HIROKYO 広島県教育委員会

2013.1

<http://www.hirokyo.co.jp>

昨春秋にリリースされた、『ネットモラルけんてい』。情報社会を安全に生きるための知識を楽しみながら学べるこの『ネットモラルけんてい』の開発に携わった玉川大学教職大学院の堀田龍也教授に、教材の特徴や効果、そして今後の展開を伺いました。



玉川大学教職大学院
堀田龍也 教授

情報モラルを気楽に普段から意識させるための教材

「情報モラル教育を行っていますか？」と問うと、多くの学校で「取り組んでいます」と答えます。しかしその実態は、年に1回外部講師を招いて講演を聴いたり、トラブル発生後に事後的な指導を行う程度。これでは情報モラル教育が日常的になっているとは言えないです。もっと気楽に普段から情報モラルに触れる機会を作りたい。そんな思いに駆られ『ネットモラルけんてい』を開発しました。子どもたちが楽しみながら学べ、気楽に短時間で実施できる教材です。

この『ネットモラルけんてい』は、小学校低・中・高学年と中学生を対象に、全10レベルで構成されています。1レベルは10問の4択式（小学校低学年向けレベルは5問2択）です。所要時間はわずか3分程度。紙のプリント教材であれば、PC教室に移動する必要もなく、朝の時間や帰りの会、授業のちよとした空き時間で手早く気軽に取り組みます。

出題内容は、子どもが8〜9割正解できる難易度をこころがけました。難易度が高すぎると挫けてしまい、やりたくなくなるからです。「これ知ってる!」と楽しみながら上位のレベルに次々と挑戦し、同時に

不確かだった情報モラルの知識がより確かなものになるように工夫しました。
出題内容は、文部科学省の「情報モラル指導モデルカリキュラム表」の5分野に位置づいています。検定結果を見れば子どもが苦手とする分野が一目瞭然で、今後の指導に活かれます。
各問題は『事例で学ぶNetモラル』の教材に対応しているの、正答率の低かった問題を『事例で学ぶNetモラル』で重点的に指導することもできます。
この教材で子どもの心や行動がすぐに変容するとは、考えていません。しかし知識の習得には有効だと、確信しています。知識を習得しておけば、正しく判断して行動する手助けには必ずです。

約1万5千枚の検定結果を集計し、分かってきたこと

『ネットモラルけんてい』は昨年11月から希望者への無料贈呈を開始し、約200の学校や教育委員会から申込みをいただきました。先生方からも、「短時間で手軽に行える」「検定を受けるだけで勉強になる」「発達段階に合わせて問題レベルを選べるのがいい」「身近な問題なので、意欲的に取り組んでいた」など、高い評価をいただいています。教育委員会が管轄内の全小中学校で実施し、結果を集計・分析して現状と課題の把握に役立てているケースもあるようです。

我々Netモラル研究会でも、独自にデータを集め、分析中です。200名以上の小・中学校の先生にご協力いただいて『ネットモラルけんてい』を学校・学級で実施し、約1万5千枚もの答案を回収。各問題ごとの正答率などを分析しています。その結果、いくつかのことが明らかに

なっています。まず、子どもが苦手としている分野が判明。ほとんどの問題が正答率9割前後を記録する一方で、著作権やインターネット掲示板に関する問題では、正答率が6〜7割と低迷しているのです。ネットモラルけんていを実施したこと、指導が必要な緊急性の高い分野を洗い出すことができました。

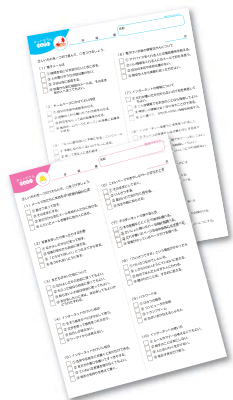
また、中学校では学年が上がるにつれ正答率も顕著に上昇するのに対し、小学校では学年が上がっても正答率がそれほど伸びていません。中学校では、技術家庭科や生徒指導によって情報モラルの知識が身に付いているが、残念ながら小学校は、その積み重ねができていないのです。情報モラルは、放置しては身につかない。教師がしっかりと指導を積み重ねる必要があります。

情報モラル教育に役立つポータルサイトを開設!

この調査結果は、3月の学会で発表する予定です。多くの方にこの日本初の取り組みを知ってもらい、今後の情報モラルの指導に役立ててもらいたいと思います。

さらに情報モラル教育に役立つポータルサイト「ネットモラルけんてい」(www.netmoral.jp)も、この2月1日にオープンします。実践事例レポートや各問の正答率データなどを掲載する予定です。自分の学校の正答率と全国平均とを比較すれば、現状や課題がよく分かるはずです。また、先生方の要望に応えて新たな問題を開発し、サイトで公開することも検討しています。

情報モラル教育を日常的に行うための役立つ情報が満載ですので、ぜひご利用ください。
(取材 長井 寛)





かみや

春日井市立神屋小学校

<http://www.kasugai.ed.jp/kamiya-e/>

学校

を訪ねて



愛知県の北西部に位置する春日井市立神屋小学校は、豊かな自然に囲まれた穏やかな地域にあります。この地方には日本武尊（やまとたけるのみこと）が使用していた剣が発見されたという言い伝えがあり、剣の形と「神屋」の文字から図案化された校章は神屋小学校の自慢です。英語活動やボランティア活動に熱心に取り組んでいる神屋小学校のネットモラルけんていを活用した授業をレポートします。

取材日：12月19日

「ネットモラルけんてい」



レベルに挑戦！ 5年生48名

田中 裕子 教諭

プリントされた問題用紙が配られると、どの子どもたちも興味津々の表情で問題を見つめていたのが印象的です。田中先生が問題と選択肢を読み上げると、子どもたちは正しいと思うものに丸をつけていきました。その後、先生と一緒に一問ずつ答え合わせ。「答えは、じゃじゃーん、2番でしたー」と用意された札が上がると、「やったー」「えー」とあちこちから子どもたちの声。正答率が高い分野は「情報社会の倫理」、低い分野は「法の理解と遵守」で、特に著作権に関する問題が難しかったようです。

実践された田中先生のコメント

- ・予想以上にオンラインゲームの体験があるがその割に知識が乏しいことが分かった
- ・ケータイやネットの良い点と悪い点、ルールやマナーはきちんと指導したい



「ネットモラルけんてい」



レベルに挑戦！ 6年生42名

加藤 拓由 教諭

初めにインターネットについて質問すると、オンラインゲームは25%、メールは31%（ケータイ・スマホによる）が利用していました。次に、「ネットモラルけんてい とびうお」のプリントが配られ、10問を5分で回答。答え合わせをすると、ほとんどの子どもたちは80～100点でしたが、著作権やフィルタリングについては苦戦していたようです。

続いて「ネットモラルけんてい」の出題にもあった「電子掲示板」のアニメーションを視聴。いろいろな登場人物の立場になって考え、話し合いが行われました。

子どもたちのまとめ（ネットモラルの勉強をしてわかったこと）

- ・一人が悪口を書き込むと、一緒になっていじめる人がでてくる
- ・関係のない人にまで広まるのが怖い
- ・誰でも気楽に発言できるが、傷つく人がいるので注意が必要
- ・軽い気持ちで書き込んだことが大きないじめになる

最後に加藤先生から「ネットは空想や仮想の世界。今、みなさんはネットいじめが悪いことだと分かっているけれど、その世界に入り込んでしまったら、悪いことをしているという意識が薄れます。ネットを使うときは慎重さを忘れないでください」としめくくられました。



実践を振り返って



加藤 拓由教諭

「ネットモラルけんてい」は、実態を把握したうえでポイントを絞った授業が行える良さがありました。また、付属のビデオ教材を活用すれば簡単に指導ができる点が優れていると思います。時間の確保が難しい中、どのように指導する時間を生み出すかが今後の課題です。これからも手軽な教材を目指してブラッシュアップしてほしいと思います。

「ネットモラルけんてい」は、一般的に検定と呼ばれているものとは全く違って、教材そのものでした。「ネットモラルけんてい」を実施することが情報モラル教育になります。今回、子どもたちは楽しみながら学び、先生方は情報モラルに対する意識が向上しました。今後も保護者の方と連携を取りながら、情報モラルの指導を推進したいと思います。



安藤 礼子校長